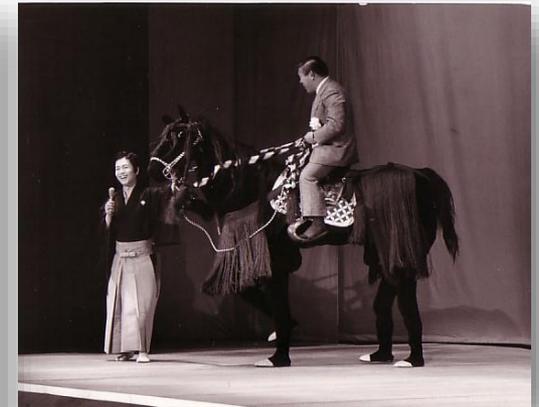


和文化講座「歌舞伎講座」

●世界に誇る歌舞伎の素晴らしさ(1)



関西・歌舞伎を愛する会
代表世話人 川島靖男
和文化教育学会 理事



● 第1回

歌舞伎の現状、歌舞伎の歴史、女方、黒衣、上方歌舞伎、和事、曾根崎心中、お初・徳兵衛の道行ルート、道頓堀五座、舞台機構、江戸歌舞伎、荒事、隈取、襲名、新時代の歌舞伎など。

● 第2回

大向う、屋号、顔見世、歌舞伎の出し物、歌舞伎の音楽、長唄、竹本、清元、常磐津、歌舞伎からの流行、浮世絵はブロマイド、江戸時代の素晴らしさ、心の演技、国際人とはなど

- **日本を知らない日本人。自国の歴史や文化を語れないと、海外の人から尊敬されません。**

● **歌舞伎を学ぶ 歌舞伎で学ぶ**

- **歌舞伎は、大衆演劇です。日本の伝統芸能の素晴らしさを再認識します。そして、日本人の優れた美意識や感性などを学びます。**
- **日本文化や、江戸時代の素晴らしさも学ぶとともに。心豊かな人生とは何かについて考えます。**



● 関西で歌舞伎を、もっと元気に・・・。

- 今から40年程前の大阪の歌舞伎公演は、火が消えたような大変厳しい状況でした。
- 歌舞伎公演というと、お客さんがそっぽを向かれるので、七月特別公演などという名称を使うほどでした。
- 中座では、昭和42年から48年までの7年間、歌舞伎公演は一度もなかった。
昭和44年から始まった新歌舞伎座での大阪顔見世も、不振のまま昭和52年の第9回で打ち切りとなった。
- 南座では、昭和39年から43年までの5年間、顔見世のみという、南座開場以来の事態を迎えた。
- 何としてでも歌舞伎を復興させたいという熱意で、昭和53年(1978)に、
関西で歌舞伎を育てる会(現、関西・歌舞伎を愛する会)を結成しました。
- 昭和54年5月、朝日座で結成第1回公演を開催するとともに、55年ぶりに船乗り込みを復活させました。



中座

関西で歌舞伎を育てる会 記者発表



左から、大島靖大阪市長・小松左京、高畑敬一代表世話人・澤村藤十郎・中村勘三郎(十七代目)・永山武臣松竹副社長・永田義男大阪民労協代表幹事

昭和53年12月20日、大阪、ロイヤルNCB会館



関西で歌舞伎を育てる会 結成第一回公演 朝日座
55年ぶりの船乗り込み・昭和54年5月2日

● 船乗り込み

- もともと大阪に限られた、古式ゆかしい歌舞伎の行事。
- 京都や江戸の役者が大阪で芝居をする時、行われた。
- ノボリや高張ちょうちんに飾られた船で、賑やかなお囃子を流して、川筋をめぐりながら口上を述べ、道頓堀の劇場に乗り込んだ。
- 関西で歌舞伎を育てる会の結成第一回公演の時、55年ぶりに復活し、今日では夏の浪花の風物詩となった。



関西・歌舞伎を愛する会 結成30周年記念 七月大歌舞伎 船乗り込み
平成22年6月29日



解説は、澤村藤十郎さん。
馬の上は、高畑敬一代表世話人。

関西で歌舞伎を育てる会、結成第1回公演、
歌舞伎の見かた。(昭和54年5月・朝日座)

● 馬の足

- 役者2人が前脚と後脚を受け持つ。人を乗せると150~160kgにも。役者には特別手当。(飼葉料)
- 江戸時代には、実物の馬も舞台に(花道でおしっこや大暴れも..)
- 舞台で初めてお客さんが馬に乗り大評判を呼んだ。
- 前足 = 中村仲太郎さん
後足 = 片岡市松さん

● 歌舞伎への疑問など

- ① なぜ女性が舞台に立たないのか。
- ② 黒衣とは。
- ③ 屋号とは。
- ④ 上方歌舞伎と江戸歌舞伎の違いは。
- ⑤ 武士は歌舞伎を観たのか。
- ⑥ 隈取とは。
- ⑦ 廻り舞台は日本人の発明。
- ⑧ 大向うとは。
- ⑨ 音も無く降るのに雪音とは。
- ⑩ 歌舞伎は、流行の発信基地など。

- 関が原の合戦(慶長5年・1600)が終わり
平安がもたらせた京都は開放感に溢れていた。
- 京都は政治の首都であると同時に、文化や経済など日本の中心。最大の人口を有する都市。
- 慶長8年(1603)、出雲の巫女「阿国」が
五条河原や北野神社(現、北野天満宮)など
で男装して「かぶき踊」を披露。
(この年、徳川家康が江戸幕府を開府)
- 多くの芸能者がやってきたが、阿国は圧倒的な支持を受けた。男の役者が演じる、茶屋女と遊ぶ姿を官能的に踊る。
- 異国風のきらびやかな衣裳。首にはロザリオ。派手な作りの太刀、妖艶な姿は「かぶき」そのもの。
- 楽器は四拍子(笛・小鼓・大鼓・太鼓)、三味線は、まだ使われなかった。
- 慶長12年(1607)2月20日、阿国は江戸城で徳川家康、大名の前でかぶき踊りを披露。2月20日は、歌舞伎の日。

● 歌舞伎の誕生

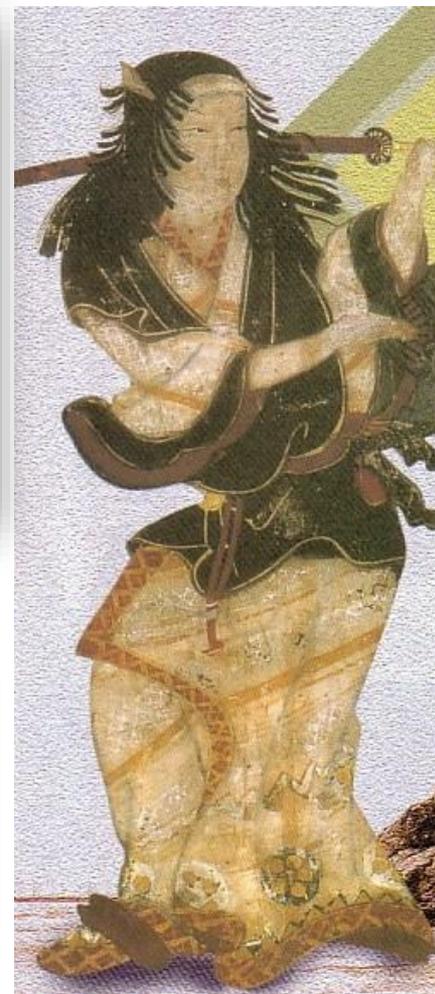
歌舞伎は女性がつくった
出雲の巫女・阿国歌舞伎



四条大橋北東角
阿国の像



南座横に、歌舞伎
発祥の碑



● 女歌舞伎(遊女歌舞伎)

風紀の乱れで、禁止される



- 阿国のかぶき踊りの評判をまねて、遊女屋の経営者は、たくさんの遊女を舞台に立たせた。
- 新しく渡来した三味線を使い、華やかな群舞によるショー。
- 風紀の乱れを理由に、寛永6年(1629)に女歌舞伎を禁止。
- 幕府は男女が舞台に立つ事を禁止。(寛永7年、1630年)

● 若衆歌舞伎

美少年による歌舞伎も風紀の乱れで禁止



- 遊女歌舞伎の禁止によって、クローズアップされたのが、前髪をつけた美少年の「若衆歌舞伎」
- 平安時代より公家や僧侶の間で、男性による同性愛が流行。武士の間にも広まり、衆道(しゅどう)と言われた。
- 男色を好んだ三代将軍、家光もファンであったが、風紀上の理由から、家光の死を待って承応元年(1652年)に禁止された。

● 野郎歌舞伎、女方の芸が生まれる。

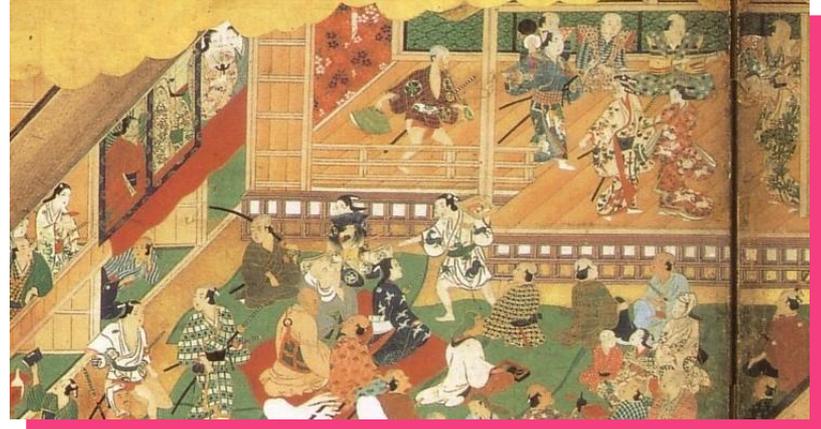
男性が理想的な女性の役を演じる



- 舞台に立つ役者は、若衆のシンボルである、前髪を剃り落とす事、写実芸をする事を条件に再開。売色的要素を排除。(野郎歌舞伎と言われた)
- 承応2年(1653年)以後、20年ほどが野郎歌舞伎の時代。本格的な演劇へ進む良い結果をもたらした。
- ストーリーを持った写実劇へ発展。役者の技芸向上。女性役も美しいだけでなく品格が重要に。次にくる元禄歌舞伎の成熟と大成を準備する重要な時代となった。

● 元禄歌舞伎、飛躍的な展開

- 町人文化の華がいつせいに咲き誇った元禄時代。(1688～) 歌舞伎も飛躍的な大展開をとげ、**今日の、歌舞伎の基礎ができた。**



- 4幕続きなど、複雑な構成。俳優の兼業から独立した専業の狂言作者の出現。

- 写実的なせりふ本位の演劇、義理と人情など人間の姿を描く。近松門左衛門(1653～1724)、上方の名優、坂田藤十郎(1647～1707)の活躍。(和事)
- 江戸では、武家社会を反映し、荒々しい勇壮活発な演目が喜ばれ、初代市川團十郎が活躍。(荒事)
- 徳川時代、265年の文化は・・・2つに分けると。
 - ① 元禄時代中心の前期は、上方が優位。
 - ② 文化(1804～)、文政(1818～)時代中心の後期は、江戸が優位。
(江戸開府から200年が過ぎていた)

● 女方(女形) (おんながた) 世界を魅了 女方の美

坂東玉三郎さん・・・大人の男が女になるのは下手をすれば、下品になりかねません 細かい技術と大変な修練、そして**何より品格が必要です**。女方を極めるということは、命がけで取り組まないと出来ません。



上村吉弥さん

- 男が女装するのではない。
女方=女では決してありません。
- 観客は、男であると分かっているからこそ、女方の魅力が生まれてくる。
- 男性が理想とする女性を演技力で表現する。
- 女形とも書き、おやまとも呼ぶ。



● 黒衣(くろご) 透明人間

- 黒い衣裳を着て俳優の演技を手伝う役や衣裳。

黒 ⇒ 暗い ⇒ 見えない ⇒ 無

- 透明人間。舞台にいてもいないという暗黙の了解(約束事)

- 雪の場面では

白い雪衣(ゆきご)

- 海、河では、青い水衣(みずご)



野崎村、お光・澤村藤十郎

- 江戸時代の大阪の人口、約40万人。武士は、約8,000人という説も。江戸に比べ非常に少ない。
- 京都の人口は、約35万人。

●上方歌舞伎

(かみがたかぶき)

- 商人や庶民中心の上方社会。台詞中心の女性的な、線の細い、つっころばしと言われる、色男が恋に落ちる様子や、おかしみの要素を加味。
- 荒事の様式性に対して、和事と言われる写実性を重視。
- 江戸歌舞伎が家の芸の継承を重視するのに対し、創意工夫、良いのであれば朝礼暮改も。



和事の創始者

● 初代 坂田藤十郎

(正保4年・1647～宝永6年・1709)

- 63歳で亡くなるまで30年間活動主として京都の舞台に出演し、時には大坂の舞台にも出た。
- 上方を代表する名優と言われる。
- 藤十郎の演技は、誇張した表現ではなく自然な感情をもとにした飾らない芸であった。
- 元禄歌舞伎の黄金期は、近松門左衛門と坂田藤十郎の名コンビが大きく貢献した。
- 2005年12月、南座で中村鴈治郎丈が231年ぶりに坂田藤十郎を襲名。

● 和事(わごと)とは。

- 立役(男役)の演技のうち、やわらかい演技をする役柄 またはその演技。
- 江戸で受けた荒事に対照的なのが和事。
- 男女の愛などを、やわらかく優美な写実芸で演じる。
- 和事の創始者といわれる坂田藤十郎は、上方で大人気を博した。



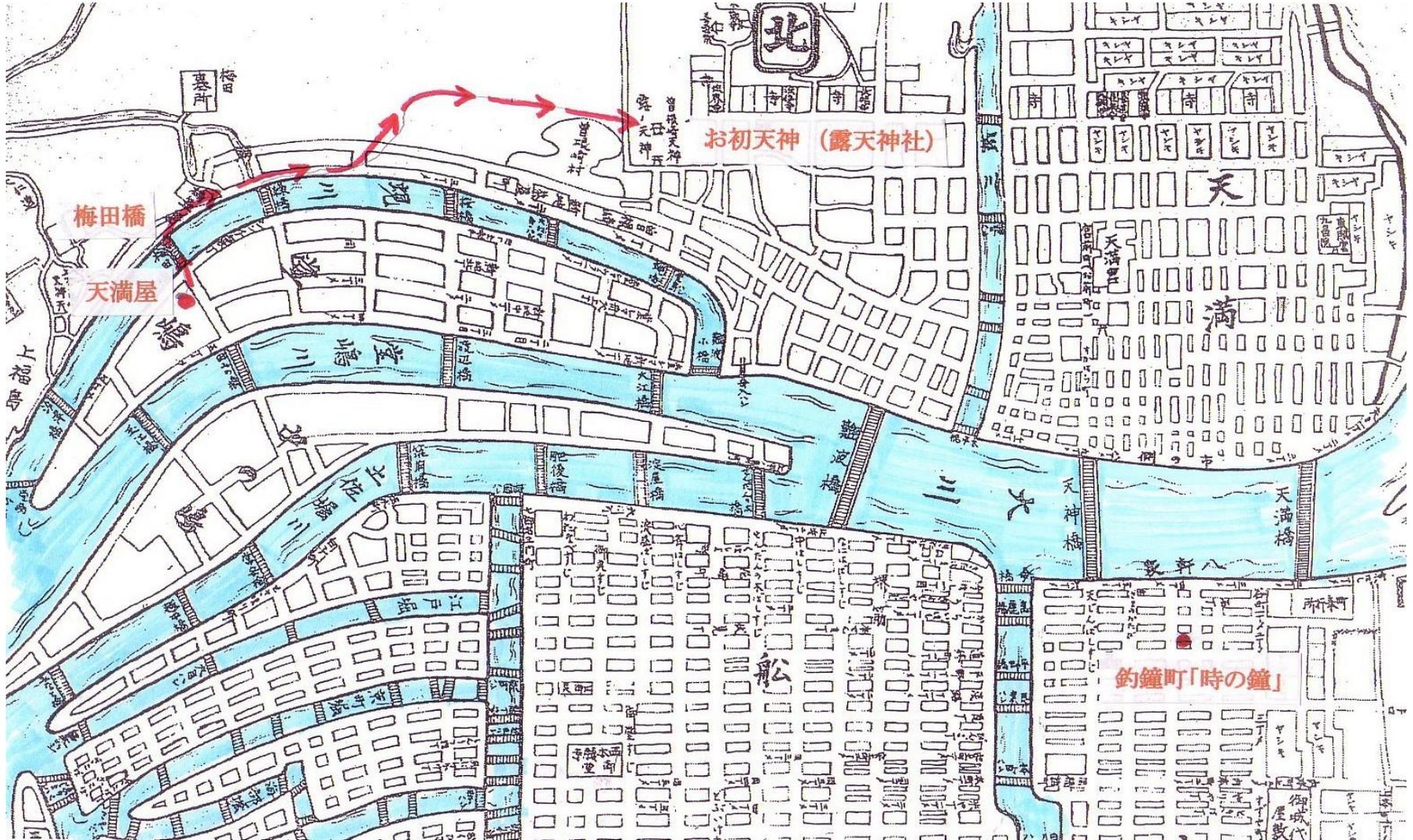
● 曾根崎心中

- 大ヒットを飛ばした、近松門左衛門作。
- 元禄16年(1703)4月7日の夜に、堂島新地、天満屋の遊女「お初」19歳と、醤油屋、平野屋の手代「徳兵衛」25歳が、曾根崎天神の森で心中。
- 近松門左衛門(51歳)は、1ヶ月後の5月7日、道頓堀、竹本座で人形浄瑠璃「曾根崎心中」を上演。大ヒットし竹本座の赤字を解消する。宝永2年(1705)に竹本座の座付作者に迎えられた。
- この作品は、人形浄瑠璃の約束事を破ったものでした。それまでは、歴史的な英雄や王朝のヒロインたちを主人公にするという決まりがありました。観客と同じ時代を生きる庶民を描くことはありませんでした。
歌舞伎では世話狂言で庶民の生活を描いていましたので、それを人形浄瑠璃に取り入れたという新しさがあります。
- 美化された心中ものが多く上演され、心中が流行。幕府は心中を禁止。
- 情死したものは葬式を出させない。さらし者にする。しかし、いっこうに心中は減らなかった。それ程、二人の死は町民に共感を呼んだ。



● お初・徳兵衛、天神の森までの道行ルート

梅田橋を越え堤防にさしかかったとき、遠くから鐘の音が聞こえました。(七つ・午前4時)釣鐘町からの鐘で、直線で約3キロ強になります。

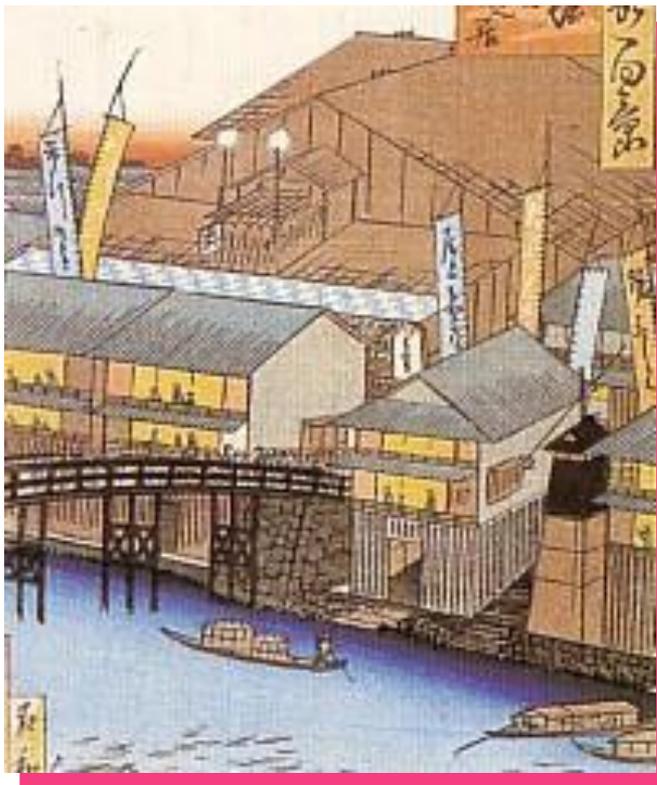


● お初・徳兵衛が、最後に聞いた鐘が現存します。

七つの時が六つ鳴りて、残る一つが今生の鐘の響きの聞き納め・・・。



- 大阪府中央区釣鐘町2-2-11 釣鐘屋敷跡に保存。
- 徳川期、初代大坂城主、松平忠明が、大坂の本格的街づくり。
- 寛永11年7月25日(1634)、三代将軍徳川家光大坂城入城。租税免除(銀179貫)。「楽市楽座」を許可。
- 松平忠明城主に続き、将軍家光も大坂の恩人。将軍家光に感謝。報恩の気持ちを含めて釣鐘をつくる。
- 寛永11年9月完成。1日12回、2時間おきに撞かれた鐘の音は市中隅々まで響き渡った。
- 4回の火災をくぐりぬげ、現在も、8時、12時、日没の3回、コンピューター制御で時を知らせている。

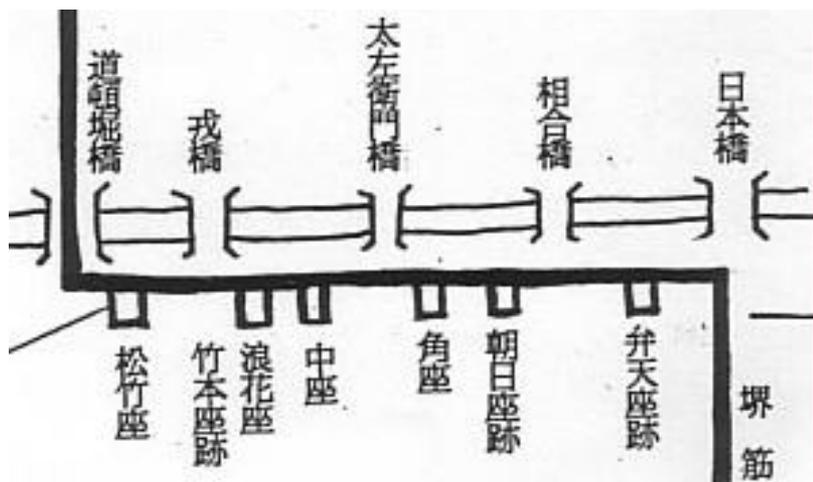


● 道頓堀五座・日本一の芝居町

慶長17年(1612)、成安道頓が私財を投げうって着工。南堀と呼ばれていたが、道頓の功績をたたえて道頓堀となった。

芝居と遊所が道頓堀に移転し、以降、芝居の街として発展する。

- **角座**・古来角の芝居と呼ばれ道頓堀の中心にあった。1758年並木正三により廻り舞台ができる。
- **中座**・慶安5年(1652)年に始まり、中の芝居といれ数多くの名優を生んだ。平成11年10月閉館。
- **浪花座**・オールナイト興行の夜芝居で賑わう。全盛期の初世中村鴈治郎の拠点となった。
- **弁天座**・古くは豊竹座のあったところ。後に竹田の芝居とよばれ、道頓堀文楽座、朝日座と名を変える。関西で歌舞伎を育てる会第一回公演を開催。
- **旧朝日座**・角丸の芝居。道頓堀東映になるが平成19年4月閉館。





●菅原伝授手習鑑・車引

- 江戸の人口は、100万人。世界一の都市。50万人が武士とその家族。50万人が庶民。
- 江戸市中には、武士の姿が多く見られた。
- 武士が、ほとんど見られない上方と違って、男が多い江戸の街には、荒々しい雰囲気。

●江戸歌舞伎
(えどかぶき)

- 武士中心の社会を反映し、荒々しい、線が太い、誇張的な扮装。仇討ちものを好む風土。演技に特徴がある、荒事を家の芸として伝える。(スーパーマン、鉄腕アトム)
- 家の芸を重視。



片岡我當・矢の根、曾我五郎

● 荒事

(あらごと)

- 荒々しい演技をする役柄や作品の事。
- 超人的な力を持っているスーパーマン。
- 初代市川團十郎が創演。武士階級中心の江戸人の気風に合い大当たりした。

● 隈取(くまどり)

- 顔に描く隈や使う色によって、役柄を誇張して表現する、歌舞伎独特の化粧法。
- 顔面の筋肉や血管を誇張したと見られている。
- 紅(べに)は、正義。
- 藍(あい)は、悪。
- たいしゃ(茶)は、妖怪変化に用いられる。
- 初代市川團十郎が荒事を創始。二代目團十郎が確立。
- 二代目團十郎の時には、すでに隈取が完成していた。
- 隈取は、50種類ほどある。





四国琴平町・金丸座の内部

- 江戸・中村座「暫」(しばらく)を演じる、五代目市川團十郎
客席は升席。舞台の横や後ろにも客席があり、お客を詰め込んだ。
羅漢台、吉野(通天)、鏡棧敷と言った。大入りでは、舞台上にも観客。
- 「観る観客」⇒「観られる観客へ」 観客も参加する芝居。
- 客席では、飲食しながら芝居を見る姿もある。



● 四国こんぴら歌舞伎大芝居

- 天保6年(1835年)に、大坂の大西芝居小屋を模して建てられた、**現存する日本最古の芝居小屋。**
江戸時代の芝居小屋の様式を現在に伝える。**国の重要文化財に指定。**
木枠で区切られた升席。人力で回す廻り舞台。
- 昭和60年6月第1回公演。再桜遇清水(さいかいざくらみそめのきよみず)
中村吉右衛門 澤村藤十郎 ほか (関西で歌舞伎を育てる会、第7回公演後)



←ぶどう棚
(雪、桜吹雪)
宙乗りの装置
も発見

廻り舞台の
回転ゴマ→





● 野崎村の 両花道

向こうは川。

母娘の船。

手前は土手。

久松のかご。

● 花道 (はなみち)

- 客席左後方から、舞台下手までのびている道。
- **登場人物の出入りに使用。常設の花道を本花道という。**
- 客席右後方から舞台上手までのびている道を仮花道という。
- ハナ(祝儀)を贈る人が通るとか、花のような役者の道だからという説があるが、よく分からない。

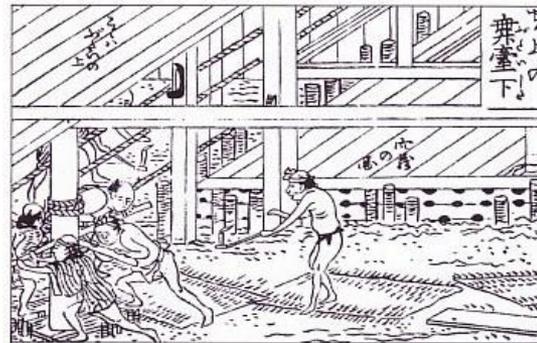


● 廻り舞台

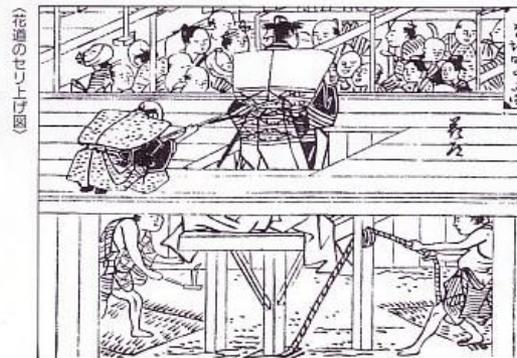
宝暦8年（1758）大坂の狂言作者、並木正三がコマからヒント（**世界初**）
奈落で人力で廻す
道頓堀、角の芝居で使用



金丸座、廻り舞台の力石



舞臺機構の新機軸（戲感訓圖）
〈せり上げの舞臺下図〉



● スツポン

花道にある小さなセリ

（上下する舞台機構）

役者がせり上がって、**首を出す姿がスツポンに似ているところから**

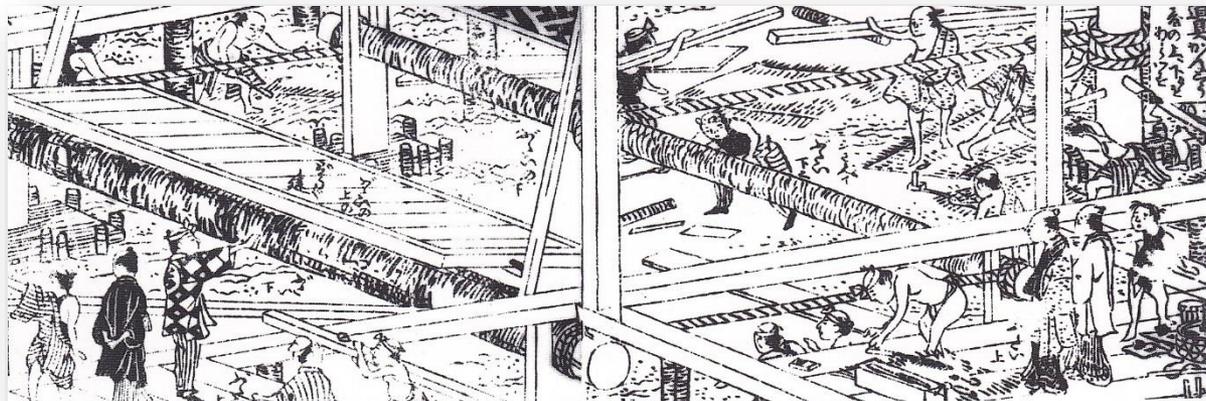
（普通の人間以外に使用・
幽霊や妖怪変化など）



〈初代並木正三〉 並木正三一代唄より

● 並木正三 (1703~1773) 廻り舞台を考案

- 大坂道頓堀の芝居茶屋に生まれる。歌舞伎や操り芝居の楽屋を遊び場として育つ。
19歳で歌舞伎脚本を書く。
その後、並木宗輔に入門。豊竹座の浄瑠璃作者となる。
- 師の没後、歌舞伎作者に復帰、活躍した。
- 宝暦8年(1758)12月、大坂角の芝居(角座)で世界初の廻り舞台を使用。さらに、引道具、セリ上げ、セリ下げ、がندوق返しなどの舞台機構や装置を考案して人形浄瑠璃から歌舞伎の人気を取り戻し、歌舞伎の発展に大きく貢献した。



● がندوق返し

大屋根などの舞台の大道具を後ろへ倒し、次の大道具をせり上げて場面転換をする。

●新時代の歌舞伎

●スーパー歌舞伎・・・1986年(昭和61)三代目市川猿之助(現猿翁)

さんが始めた。古典芸能化した歌舞伎とは異なる演出による現代的な歌舞伎。第一作は梅原猛さんの脚本による「ヤマトタケル」

伝統的な技法を使いながら、最新の舞台機構、照明設備、現代風の音楽を駆使して宙乗り、早替わりなどのけれん芸により歌舞伎の新しい楽しさ、面白さを生み出し、新たな客層の獲得に成功した。「オグリ」「オオクニヌシ」「八犬伝」「カグヤ」「新・三国志」などが上演された。

●スーパー歌舞伎II(セカンド)・・・スーパー歌舞伎のスピリットを継承した四代目市川猿之助さんが、現代劇俳優も共演した「スーパー歌舞伎II(セカンド)」として、2014年(平成26年)『空ヲ刻ム者』を上演。さらに、世界的な人気漫画「ONE PIECE」を舞台化した「ワンピース」は大きな話題を呼んだ。最新の映像機器によるプロジェクションマッピングや本水を使った迫力ある立ち廻りは、若いファンの拡大につながった。

●浅草歌舞伎、六本木歌舞伎、赤坂大歌舞伎なども話題を呼んでいる。歌舞伎ファンを増やすため関西でこそ実施を期待したい。



● 新時代の歌舞伎



- **あらしのよりに**・・・絵本やNHK教育「てれび絵本」で放送され好評を得たものを歌舞伎で上演し評判を呼んだ。嵐の夜に出会ったオオカミ(ガブ・中村獅童)と、ヤギ(メイ・尾上松也)の友情物語。
- **NARUTO(ナルト)**・・・世界的大ヒットマンガ「NARUTO(ナルト)」うずまきナルト(坂東巳之助)と、うちはサスケ(中村隼人)との友情を、歌舞伎独自の演出方法と最新映像が融合された新感覚の歌舞伎。
- **超歌舞伎公演**・・・古典歌舞伎と最新の映像テクノロジーが融合した、奇跡の舞台。
 NTTの技術「両面透過型多層空中像表示装置」を使い、中村獅童とボーカロイドキャラクター初音ミクの共演が見もの。
- **平成中村座**・・・江戸時代の芝居小屋を再現したいという中村勘三郎さんの熱意でスタート。2000年(平成12年)に東京の浅草で公演。2004年7月、『夏祭浪花鑑』をアメリカ・ニューヨーク(リンカーン・センター)で公演。2002年11月に、大阪・扇町公園で公演。2015年(平成27年1)大阪城西の丸庭園で公演。



●十三代目 市川團十郎白猿、襲名披露

市川海老蔵さんが歌舞伎界の大名跡、市川團十郎を襲名

長男、堀越勸玄が八代目市川新之助として初舞台

(襲名披露公演)

- 十一月歌舞伎座、顔見世大歌舞伎

2022年11月、12月

歌舞伎座

- 九月博多座大歌舞伎

2023年9月、博多座

- 十二月南座吉例顔見世興行

2023年12月、南座

- 二月御園座大歌舞伎

2024年2月、御園座

- 十月大阪松竹座大歌舞伎

2024年10月、大阪松竹座

- 2023年3月、2024年9月は、全国各地で巡業公演



● 伝統を継承する、優れた襲名の知恵

- 襲名の「襲」とは ⇒ 衣服を重ねるという意味
先代の着た衣裳、「芸」の上に重ね着をして継承すること。
- 歌舞伎(家の芸)の伝統を継承し、さらに発展させる、優れた役者の人財(材)育成システム。
同時に、興行主(松竹)にとって、確実にお客様が入るドル箱路線。
- 襲名の決定から、関係者への挨拶回り、主要な劇場(歌舞伎座・南座・大阪松竹座・博多座など)での襲名披露興行・その後、全国巡業へ。
興行だけでも、2年に及ぶ長い期間がかかる。
- その間、家の芸風・父の芸・役柄など、高いハードルに懸命に挑戦される。
(精神的にも肉体的にも限界に挑戦)
- 結果として、襲名することにより自覚が高まり、襲名披露興行が終わると、飛躍的に成長した役者に生まれ変わり、家の芸も継承される。

- 世界に誇る伝統芸能、歌舞伎を関西でもっと盛んにしましょう。
- 歴史は連続。引き継いだ以上のものを創造し、
次代に渡す義務があるのではと考えます。
- ご清聴ありがとうございました。皆様方の、ますますのご活躍を祈念
申し上げます。
- 時節柄、お身体にご自愛ください。

ご意見や質問などがありましたら、ご連絡下さい。

携帯・・090-5165-1710

E-mail: ykawa@hat.hi-ho.ne.jp

関西・歌舞伎を愛する会 代表世話人 川島靖男
和文化教育学会 理事

